

1 社会・治安情勢

- (1) 3月から行われていたパキスタン政府とイスラム原理主義武装勢力パキスタン・タリバン運動（TTP）との和平交渉が停滞を見せる中、カラチ市内では、6月8日深夜から未明にかけ、カラチ国際空港貨物ターミナルが武装したTTP勢力に襲撃された。10人の武装集団が、空港警備隊等の治安部隊と激しい銃撃戦を繰り広げ、最終的には自爆ジャケットで爆死する等して犯人全員が死亡したが、この事件により治安関係者や空港職員等28名が殺害され、同空港が半日以上の間、機能不全に陥った。この事件を機にパキスタン陸軍がTTP勢力の本拠地と言われる北ワジリスタンにおいて軍事作戦を開始したことで、現在、カラチ市を含む全パキスタン国内において、TTPによる軍事作戦への報復テロの脅威が高まっている状況である。
- (2) バロチスタン州では4～6月中も引き続き、宗教過激派組織や民族主義武装集団による爆弾テロや標的殺人が頻発した。特に武装集団と治安機関との攻防が激化しており、4月に辺境警備隊が掃討作戦で約40人の非合法武装組織の構成員を殺害したが、その翌日には、武装集団が特急列車を爆弾で爆発させ、乗客64名以上を死傷させるという報復テロを敢行した。さらに検問所等に配備中の治安関係者が武装集団に殺害される事件が頻発していたところ、6月に再度、辺境警備隊が掃討作戦を行い、民族主義武装集団の隠れ家を壊滅するとともに構成員30名以上を殺害した。このように現在、バロチスタン州は治安機関と武装集団が臨戦状態になっており、治安情勢は極めて悪い。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) シンド州警察が発表した本年4月～6月の犯罪統計によれば、カラチ市における犯罪件数は9,664件発生し、前年同期の9,573件と比べて横ばい状態である。犯罪種別は以下のとおり。（カッコ内は前年同期）
- ・ 殺人 402件（574件）
 - ・ 身代金目的誘拐 26件（27件）
 - ・ 暴動 197件（232件）
 - ・ 屋内強盗 76件（127件）
 - ・ 自動車目的強盗 108件（96件）
 - ・ 武器不法所持 2,001件（1,306件）
 - ・ 交通死亡事故 84件（68件）
- 治安機関によるテロリストや殺人犯等の集中取り締まり（掃討作戦）の効果で、殺人や他の犯罪件数は前年に比べると減少しているものの、不法銃器等の押収件数が増加している事実は、当地が銃社会であり常に治安悪化の潜在的な危険性を有していることを表している。
- (2) 邦人被害事案

6月5日、カラチ国際空港到着ゲート前の車寄せ付近において、邦人が車両に荷物を積載中、荷物を載せていた荷車（カート）からノートパソコン1台を置引きされた。

3 主なテロ・爆弾事件発生状況

(1) カラチ市・シンド州

ア 4月19日、カラチ市シャラエ・ファイサル通りにおいて、著名なジャーナリストの乗った車両が何者かに銃撃され、同人が重傷を負った。

イ 4月24日、カラチ市オールドサブジマンディ地区において、TTP関係者がテロ犯罪捜査官を狙って自爆テロを敢行し、同人を含む4人が死亡、15人が負傷した。本件につき、TTPが犯行声明を出した。

ウ 4月25日、カラチ市DHA地区において、金曜礼拝を終えたシーア派関係者が乗ったバスを狙ったと思われる爆弾テロ事件が発生し、通行人ら4人以上が死亡し、30人以上が負傷した。

エ 5月6日、カラチ港付近の車両ターミナルにおいて、オイルタンカーに仕掛けられた爆弾が爆発し、少なくとも3台のオイルタンカー車が大破した。タンク内が空だったため被害は拡大せず死傷者は無かった。また同日、カラチ市SITE地区内を走行中のオイルタンカー車が、仕掛け爆弾により爆発したが、油類は漏れず車両が損壊するに留まった。

オ 5月7日、カラチ市キマリ地区の車両ターミナルにおいて、タンカー車に取り付けられた爆弾が発見され、爆発物処理班により爆破処理が行われた。

カ 5月21日、カラチ市ノースナジマバード所在のレンジャー本部前において同隊員を狙った爆弾テロ事件が発生し、通行人ら8人が負傷した。

キ 6月8日深夜から9日未明にかけ、カラチ国際空港貨物ターミナルにおいて空港襲撃事件が発生し、治安機関や空港関係者合計28名が殺害され、武装集団10名が自爆などして死亡した。本件につきTTP等が犯行声明を出した。また、6月10日、カラチ国際空港にある空港警備隊の訓練施設において、何者かが隊員へ発砲して銃撃戦となった（死傷者なし）。

(2) バロチスタン州

ア 4月7日、バロチスタン州ジュハンにおいて治安機関が民族主義武装勢力の本拠地を急襲し、同勢力の戦闘員約30名を殺害した。

イ 4月8日、バロチスタン州シビ郡にある駅において、民族主義武装勢力が上記治安活動に対する報復として停車中の特急列車を爆破し、乗客14名が死亡、50人以上が重軽傷を負った。

ウ 4月23日、バロチスタン州デラブグティ郡において民族主義過激派がガスパイプラインを爆破しガスプラントへのガス供給が止まった。

エ 4月24日、バロチスタン州チャタル地区において、武装集団がパトロール中

の警察車両を銃撃し、警察間4名が射殺された。

オ 5月3日、バロチスタン州ボラン郡において、辺境警備隊の車両が爆弾テロに遭い、同隊員2名が死傷した。

カ 5月8日、バロチスタン州クエッタ市内の市場において、オートバイに仕掛けられた爆弾が爆発し、2名が死亡、16名以上が負傷した。

キ 5月11日、バロチスタン州クズダール郡の辺境警備隊の検問所が武装集団に襲われ、同隊員2名が死亡した。

ク 6月5日、バロチスタン州デラブグティ郡において、辺境警備隊が民族主義武装勢力の本拠地を急襲し、構成員約30名を殺害した。

ケ 6月8日、バロチスタン州タフタンにおいて、シーア派巡礼者が宿泊するホテルを武装集団が襲い、巡礼者のバスに対して自爆テロを敢行するなどして同派教徒23名以上を殺害した。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

シンド州警察が発表した4月～6月の犯罪統計によれば、カラチ市内における身代金目的誘拐は26件、身代金目的以外誘拐・略取は397件（前年同期472件）、児童誘拐は24件（前年同期31件）発生している。4月には国連機関（ユニセフ）の現地職員2名がカラチ市郊外で拉致され、警察の捜索により後日同市内で発見保護された。なお、期間中、邦人が被害者となる誘拐事件は発生していないものの、過激派組織が資金稼ぎのために犯行に及ぶケースや一般犯罪組織等が誘拐した被害者を金銭目的で過激派組織に売り渡すケースもある。在留邦人を含む外国人が誘拐された場合には事件が長期化する傾向が強いので、当地で生活するうえで誘拐犯などの犯罪者に隙を与えない日常行動が重要である。

5 日本企業の安全に関する諸問題

6月8日にカラチ国際空港襲撃事件が発生した際、空港にいた邦人から当館に無事を知らせる連絡があったことで速やかな対応ができた。有事には在外公館と在留邦人の連絡を密にし、双方向で情報共有を図り安全を確保する必要があるため、事件に遭遇した場合の当館への連絡を徹底していただきたい。

また、当地では現在、治安機関がTTPの報復攻撃に対して警戒を強めている状況にあるので、当地への渡航については報道等の最新の治安情報に留意するとともに外務省ホームページに掲載されている渡航情報等を参考にし、その是非を十分検討していただきたい。なお、当地滞在中の安全対策を考える上で当館ホームページ掲載の「安全の手引き」等を参考にいただきたい。